



短くなった春の後に直ぐ夏になった感があります。“線状降水帯”という以前は聞かれなかった言葉が、近年では度々耳にするようになりました。古民家の造り方を観ると、バランスのとれた四季の特徴をとらえていることがわかりますが、現代の気候の状態において古民家と同様の住宅を建てるとしたら、どのような建築になるでしょうか。

台風も発生し、水害も心配される季節になりました。

## 苦難を乗り越えて

### 明治23年の水害

「洪水」、「大水」、「水害」、「水災」……同じ自然災害でも様々な言葉で表現されます。その状況や内容、立場によって、使い分けられるようです。

明治23年(1890年)に埼玉県東部を中心に起きた大水害では、県内各郡から宮内省(当時)に被災状況の具体的な報告書が提出され、『埼玉県水災概況』として残されています。それによると、「北足立・新座郡」の報告書は「水害概況書」です。「北埼玉郡」は「水害当時の概況」です。「比企・横見郡」は「出水に関し当部内罹災の概況」です。そして越谷市域が含まれた「南埼玉郡」からは「浸水の景況」となっていました。

市内のある旧家には下のような史料が残されていました。この時の水害から3年後の明治26年(1893年)に、人々が共同して復興を成し遂げたことを記念して石碑を建てたことを祝っている図です。宴席の4人にはそれぞれ「すみぼう(=すいぼう・水防)」や「けんぴ(建碑)」などの文字が当てはめられていて、その上には洪水の状況や水防作業などを刻んだ石碑を瓦曾根溜井かわらそねためいに建てたことが誇らしげに書かれています。



瓦曾根溜井防水記念碑  
しらこぼと橋南詰近くの公園に建てられています。

この水害は8月23日に北埼玉郡須加村下中条(現・行田市)の利根川堤防が100m余りにわたって決壊したことから始まりました。県下26195戸が浸水しました。現在の越谷市域では1365戸が浸水。救助された人は4846人にもなりました。

## 「先人の苦勞を知った」 「現代までの治水をもっと詳しく」

レイクタウン周辺で開催された今年度の「防災フェス」に際し、旧東方村中村家住宅でこの水害についての簡易な展

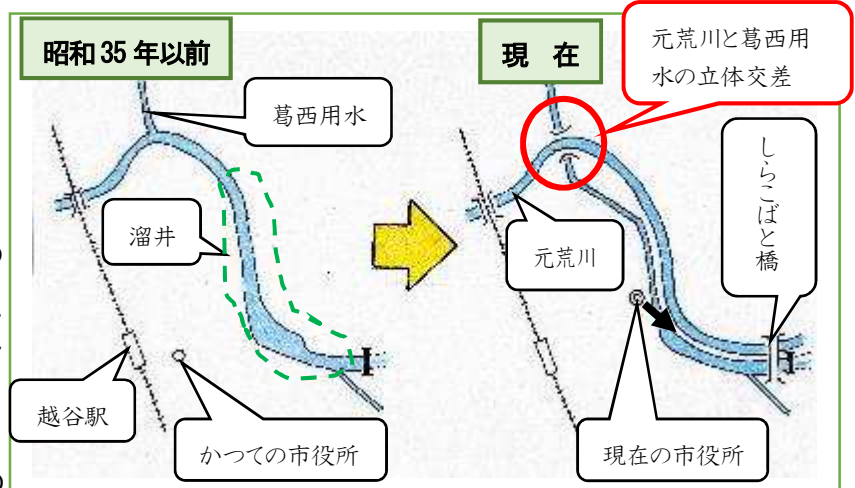
示を行いました。(6月30日まで展示をしています) 観覧して頂いた方々のご感想(一部)をご紹介します。

- ★調節池が水害対策のために出来たと説明を受け、川にはさまれた地域の大変さがわかりました。温暖化による予想外の災害もあり、他人事でなく考えさせられました。
- ★当時の水防の様子や堤が決壊した際の水の進路などがイメージできた。
- ★明治23年のほかに、どれくらい洪水が何度くらいあったのか、年表があるともっと勉強になります。
- ★災害と地域は切り離せないものなので興味深かった。
- ★昨年6月に大雨で浸水がありましたが、100年も前から度々同様の事が起きているのは知らなかった。できれば、今までの市で行ってきた対策等も時系列で展示していただければありがたかった。
- ★この地域は元水害に弱いイメージがあったので、このような水害に関する歴史をまとめて展示することは、今後の対策にとって大変重要な取り組みであると感じます。
- ★地域が団結して水害から守る取り組み等、わかりました。
- ★水害への備蓄は、家のどこにされていたのか? →(大間野町中村家住宅では、土間上部の屋根裏でした)
- ★現在、近代的な街となっているこの場所に、昔の方々が大変な苦勞をされたことを知りました。感慨深いものがあります。
- ★最近引っ越して来たのと、娘が生まれたので、自分の住む地域の歴史を子と一緒に知ることが出来て、楽しかったです。
- ★子どもが自由研究で水害について調べているのですが、大変勉強になりました。越谷市のデジタルアーカイブなどで見られる資料もあると思うので、そちらとつなげる記述等があると、興味がある人は活用できると思います。日記や祭礼帳の解説がとてもわかりやすかったです。
- ★昔の水害について調べていたので、昔の言葉が訳されていたり、資料がたくさんあったりしたので、とても役に立つ情報だなと思いました。自由研究に役立てていきたいです。(小学生)
- ★明治23年の水害に関する展示は少ないと思うので、良い機会でした。ありがとうございました。この続編やカスリーン台風、それらの教訓がその後活かされたか否か等、興味はつきません。

どの文面もとても貴重なご指摘やご感想が記されていました。有難うございました。

“瓦曾根溜井”は元荒川に近世以降整備されてきた施設で、下流の耕地を潤すための用水路(八条用水、東京葛西用水など)の堰(取り入れ口)が設けられています。また、洪水に備えて水量を調節する役割も果たしました。

近年、市域では堤防が決壊するほどの水害には見舞われていませんが、その理由の一つは調節池を設けたことです。大吉調節池は平成3年(1991年)、大相模調節池は平成26年(2014年)に完成しました。これより前の昭和35年(1960年)、葛西用水と元荒川の分離工事が始まりました。数年かけての工事によって、葛西用水は伏越として元荒川と立体交差するようになったのです。



左の写真は市役所本庁舎8階の展望室から撮ったものです。(上図の黒矢印の方向を臨む)